鹿児島市立病院だより

「桜島を背景に、錦江湾に浮かぶ日本丸」　　撮影　美園俊明副院長

・がん相談支援センター、緩和ケア外来、の案内
・泌尿器科紹介・・・外来、透析室、砕石、手術、病棟
・妊娠と薬、妊娠と薬相談
・マンモグラフィ認定技師、ピンクリボン紹介
・子宮頚部がん予防接種の案内
・優良自治体病院総務大臣表彰授与
・保育器、絵の寄贈
・外来診療案内

病院広報・医療連携誌
平成２２年９月　第６号

がん相談支援センターのご案内

当院では、がん治療を受けている患者さんや、そのご家族から「がん」に関する相談を受ける「がん相談支援センター」を有しております。

がん相談支援センターは、大きく分けて（1）がん相談（2）がん情報の発信を行っています。当院の相談対応の特徴は、医師のみでなく、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師等のコメディカル部門、医療、福祉関連の専門スタッフや臨床心理士を配置し、充実した体制をとっております。このことから、直接的ながんの診断治療に関する相談以外にも、薬剤や看護、検査方法から保険制度にいたるまで、広範囲のご相談にお応えできると考えております。

1. がん相談について

連携室が相談内容を確認させていただき、内容により、医師、看護師、薬剤師他のコメディカル部門の職員、医療ソーシャルワーカー、医療事務担当職員などが対応できるように調整させていただいております。

現在までの主な相談例をあげますと以下のとおりです。

1）診断や治療法に関する相談

原則として、診療時、主治医に相談して頂いていますが、十分な時間が取れない場合もありますのでその場合は、担当科に遠慮なくご相談ください。

2）医療費問題など社会保障等についてのご相談

がん診療にかかる医療費や社会保障制度全般のご相談をお受けしております。専門の医療ソーシャルワーカー、医療事務担当職員が対応いたします。

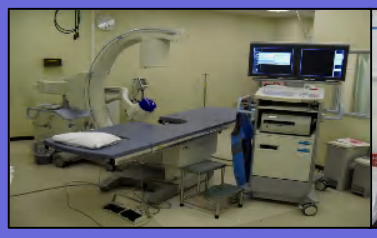
2. がんの情報の発信について

現在、地域の医療機関の医師を含む職員の方々に対して、がん診療に関する研修会などを実施しており、多くの方々に参加していただいております。また、さらなる情報発信目的として、資料の提供、がん診療にかかる当院の診療実績や診療体制にかかる情報提供などを行っております。

相談は、がん相談支援センター（医療連携室内）に直接お越しいただく方法と、電話でお話を伺う方法があります。ご相談は無料となっておりますが、お一人 30 分以内とさせていただきます。また、ご相談の内容によりましては、後日改めてお受けする場合があります。

受付時間　：　平日の9時00分～16時00分
場　　所　：　がん相談支援センター（医療連携室内　1階）
電話番号　：　099-216-3631（直通ダイヤル）

泌尿器科の紹介



部長待遇　萱島　恒善

泌尿器科は副腎を含めた後腹膜臓器（腎、尿管、膀胱）や男性生殖器の疾患に対応する診療科です。歴史的には皮膚泌尿器科として日本に導入され、当初は性行為感染症を治療の主な対象としていましたが、皮膚科、泌尿器科が独立し、現在泌尿器科で扱う性行為感染症は男性尿道炎程度です。あまり積極的に受診したい診療科ではないと思いますが、健康診断、人間ドックの普及やＰＳＡ導入による前立腺がんの早期発見と天皇陛下や最近では間寛平などの有名人の罹患、団塊の世代が尿路腫瘍の好発年齢にさしかかってきたことなどから受診者は増加傾向にあります。
スタッフは常勤医３名（全員泌尿器科指導医）、医員２名の５名です。

萱島部長を囲んで外来スタッフ

常勤医１名が血液浄化を担当しています。

外来は毎日 50-80 名の受診者診療を行っていますが、高齢者が多く、ＣＴ、尿路造影、内視鏡、尿流動態検査や入院などの説明に口八丁手八丁の２名の看護師でも手が足りないほどです。午前中に診療を終えることが難しい状況が続いています。
午後は尿路結石症に対する体外衝撃波結石破砕術や造影検査、前立腺生検などの検査を主に行っています。体外衝撃波尿路結石治療は年間 100 例程行っています。

体外衝撃波結石破砕機

2009 年の入院患者は 497 名でした。これまでは６階西病棟を中心にした体制でしたが、2010 年 6 月の病棟編成で 6 階東西の病棟にそれぞれ 10 床ずつの配置をしていただき、両方の病棟で同じように看ていただけるので大変仕事がやりやすくなりました。入院は手術対象者が中心になりますが、透析導入時期の腎不全症例や重症の尿路感染症症例も救急入院してきます。昨年は 337 例に対

して手術を行いました。主な手術として腎細胞癌や腎盂尿管癌に対する腎悪性腫瘍手術40 例、このうち腎温存のための腎部分切除術4 例、膀胱癌に対する経尿道的手術 71 例、膀胱全摘術と尿路変更術 8 例、前立腺癌に対する前立腺全摘術 32 例、前立腺肥大症に対する経尿道的手術 67 例などのほか小児に対する腎盂形成術、尿道下裂手術、停留精巣手術なども行いました。腹腔鏡下手術の取り組みとして精索静脈瘤手術も行っています。

内視鏡手術風景

また腎不全症例に対するシャント手術 15 例も行いました。手術室以外では腎後性腎不全患者に対する経皮的腎瘻造設術や尿閉患者に対する経皮的膀胱瘻造設術なども行っています。毎日朝夕 5 人での病棟回診を行い、入院患者さん状態把握に努め、何かあればより速く、より安全に対処できるように努めています。

泌尿器科はもう一つ血液浄化も担当させていただいています。

透析室で
一美先生と検査部門看護師

透析室は 6 床で運用していますが、全科に入院される慢性腎不全患者の血液透析管理を行っており、常に満床状態が続いています。看護スタッフは、検査部門専従の看護師が担当しています。また薬物中毒などの救急入院患者に対する血液浄化（主に CHDF）は ICU で行っていますが、24 時間体制で対応しています。

ICU入室に備え
CHDF・呼吸器など準備する臨床工学士

4 月に責任体制、スタッフの交替がありましたが、診療の質をより向上できるように、またより素早い対応ができるように全員で頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

病 棟 紹 介

看護師長　本田恭子　有木素子

泌尿器科は、6 階東、6 階西病棟に分かれ、各 10 床の計 20 床のベッドで稼働しています。6 階東病棟は、主に透析、結石破砕、手術（脊椎麻酔）目的の患者さんが入院し、6 階西病棟は、化学療法及び手術(全身麻酔)目的の患者さんが入院しています。どちらの病棟も混合病棟で煩雑ですが、同じフロアなので、お互い病棟の連携がスムーズで、協力しながらベッドの調整を行っています

入院患者さんは、0 歳から 90 歳代までを対象とし、幅広い年齢層でそれぞれの個別に対する身体的、精神的特徴を理解した支援が必要です。

6 階東病棟は、6 月の病棟再編で、病床数が 6 床から 10 床となりました。それに伴い、さまざまな疾患の患者さんが入院してくるようになりました。前立腺全摘出術や腎臓摘出術、化学療法や放射線治療を受ける終末期の患者さんなどです。尿路変更を伴う手術を受ける患者さんは 6 階西病棟に入院をお願いしていますが、安心･安全な看護を提供するためにも、徐々に対象疾患を増やし、経験を重ねて看護したいというのがスタッフ希望です。

主に、6 階東病棟に入院される慢性腎不全の患者さんは、さまざまな疾患を合併している場合が多く、透析や、ADL・心理社会面など生活全般を含めた、多面的な支援が必要となります。

6 階西病棟は、手術目的の患者さんが多く、手術前、手術後の看護が中心となります。数ある疾患の中でも人工膀胱造設の患者さんに対しての指導に力を注いでいます。ボディイメージの変容もあり、精神的援助も含め、日常生活指導、社会復帰に向けての個別のケースに即した指導が必要です。皮膚・排泄ケアの認定看護師を中心に、尿路ストーマについての知識を深め、患者さんの QOL の維持や向上を目指して退院指導を行っています。

また、手術後の治療で化学療法や放射線療法を受ける患者さんは、精神面・身体面の負担も大きいため、副作用への適切な対応に心がけています。終末期の患者については、院内の緩和ケアチームと連携をとり、効果的な薬剤使用ができるような体制をとっています。

6 階東･西病棟それぞれが部署目標として、「チーム医療の推進」を掲げています。

6 階東病棟スタッフ

患者カンファレンス･他職種間合同カンファレンスで治療方針や看護上の問題点などについて、情報交換を行い、情報の共有や検討が行われています。7 月の病院機能評価受審において、病院全体で取り組んだことにより、他職種の仕事内容がより理解でき、コミュニケーションが緊密になり、スムーズに専門家に助言が求められるようになってきました。これからは、更に他職種と協働し、患者･家族にとって最善の医療･看護が提供できるように取り組んでいきたいと考えています。

コメディカル合同のカンファランス　6階西病棟

妊　娠　と　薬

総合周産期母子医療センター　池畑　奈美

◎薬の催奇形性と投与時期における影響

妊娠 4 週(受精後 18 日)以前の時期

この時期の受精卵は着床するかしないか、あるいは流産するかのどちらかで、この時期に使用された薬は影響を及ぼすか及ぼさないかのどちらかになる。したがってこの時期に薬を服用した場合、胎児への影響は問題ないと考えてよい。

妊娠 2 か月(受精後 19～37 日)

この時期は器官形成期といわれ、胎児の中枢神経系、心臓、消化器、四肢などの種々の臓器が発生、分化する時期で薬に対して最も敏感に反応し、催奇形性が問題になる時期である。

妊娠 5 か月以降

胎児が機能的に成熟する時期であり、この時期に投与された薬により奇形のような形態異常は起こらないと考えてよい。むしろこの時期においては、母親に投与された薬剤が胎盤を通過し、胎児の発育障害、新生児への影響が問題である。

授乳期

母親が内服したほとんどの薬は母乳中に分泌される。しかし、8 割くらいの薬は母乳が作られるときに母親の血液中よりもかなり濃度が薄くなることがわかっている。濃度が濃くなる薬でも実際に新生児の体内に吸収されて有害な症状がでる薬は非常に限られている。そのため授乳期には問題にならない薬がほとんどである。

◎妊娠、授乳中の薬の服用については、医師に相談を

厚生労働省事業　妊娠と薬情報センター

妊娠中、授乳中に胎児、新生児への影響を考えて薬を自己中断するお母さんがいます。しかし、喘息、てんかん、膠原病など慢性疾患をもっているお母さんなどは薬を内服しないことで、胎児に悪影響を及ぼす場合もあります。自分が内服している薬や、妊娠に気付かずに内服してしまった薬に関して心配があるときは、主治医や、薬を処方した医師、薬剤師に相談して下さい。また厚生労働省の事業として 2005 年 10 月より「妊娠と薬情報センター」という妊娠、授乳中の服薬に関する情報機関があります。現在、我が国においては、医薬品の妊婦、胎児への影響に関して、必ずしも十分な情報があるとはいえません。相談に際しては、カナダのトロント大学と連携し、小児科病院で蓄積されたデータ他、既存の文献を基礎情報として活用し、科学的に検証された医薬品情報を妊婦や妊娠希望者に提供することで、妊婦、授乳婦、胎児への影響を未然に防ぐことに努めている機関です。鹿児島市立病院も全国で数少ない拠点病院の一つとして協力しており、センターへの情報提供を実施しています。相談方法については、妊娠と薬情報センターのホームページを検索されるか、鹿児島市立病院産科外来にご相談ください。

妊娠と薬相談

薬剤科　井川潤子

『妊娠と薬外来』という専門外来が東京都の国立成育医療センターと全国１６箇所の協力病院に設置され、鹿児島市立病院は平成２２年５月から『妊娠と薬相談』をお受けすることとなりました。

これは、妊娠と薬に関する相談件数の増加に伴い、厚生労働省の妊娠と薬情報センター事業の一環として設けられたものです。その目的は、妊婦またはこれから妊娠を希望する女性からの相談に応じ、正確な情報を伝えることで不安を取り除き、最善の医療が行えるようにすること（相談業務）と妊娠の結果情報を収集・評価し、将来の相談者への貴重な情報として役立てること（調査業務）です。

持病でお薬をのんでいて妊娠を希望される方や妊娠していることを知らずにお薬を飲んでしまったなどのご心配がある方の相談を受け付けています。

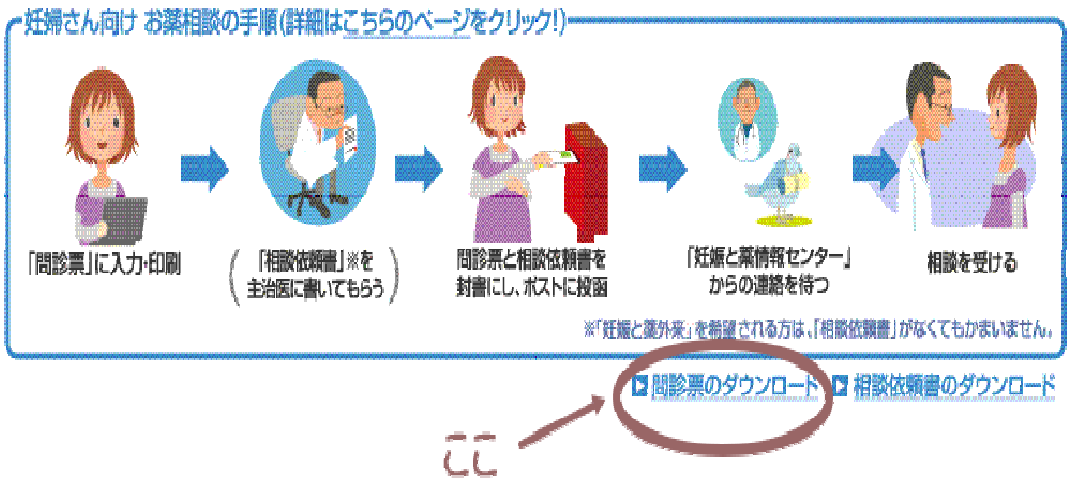
この相談外来は相談者の意思によるものであり、また相談された主治医がその必要性を判断した場合の相談となり、自費診療となります。そのため相談者は自身で『妊娠と薬情報センター』にアクセスし、問診表を入手し、相談を受ける手続きが必要となります。

相談者に回答する情報は、成育医療研究センター内に設置された『妊娠と薬情報センター』が大規模な TIS（Teratology Information Service）をもつカナダのトロント小児病院のマザーリスク・プログラムから収集・評価した最新のデータに基づくものです。

詳細は以下に御紹介します。

◆当院相談までの手続き

妊娠と薬情報センター　http://www.ncchd.go.jp/kusuri/index.html にアクセスして下記の手順で問診表を入手します。
（鹿児島市立病院ホームページにも掲載してあります）



◆当院での妊娠と薬相談の流れ

１　相談日の決定

妊娠と薬情報センターから『相談方法のお知らせ』がご自宅に届いたら、
希望する相談日を下記に連絡していただく。
薬品管理室　TEL：　099-224-2101（内線 2603）　FAX：　099-224-9916

2　相談当日の来院

相談当日は鹿児島市立病院　２階　産科外来受付に１０分くらい前までに直接お越しいただく。相談には必ずご本人にお越しいただく。

【相談当日ご持参いただくもの】

・相談方法のお知らせ（妊娠と薬情報センターから郵送されてきたもの）
・健康保険証とお持ちであれば鹿児島市立病院の診察券

３　相談

相談内容に関する説明。相談は主に産科医師と薬剤師が担当。
主治医からの相談依頼書がある場合は、受診された内容を産科医師から主治医に報告させていただきます。

４　支払い

相談時間　３０分　10,500 円　（消費税込・自費負担）
相談時間　６０分　15,750 円　（消費税込・自費負担）

５　調査ご協力のお願い

相談者には相談終了時に出生児の調査協力を併せてお願いします。
これは、将来、さらに確かな情報を提供するために、相談者の服薬状況や妊娠経過に関する情報を蓄積し、検討させていただくためのものです。
相談者の出産予定日から１ヶ月経過時点で妊娠と薬情報センターから送付される妊娠結果調査はがきに記入し、返信していただきます。

産婦人科の先生方のご指導とご協力のもと、薬剤師として『妊娠と薬相談』に参加させていただくことになりました。

日本ではまだまだ医薬品の妊婦・胎児への影響に関して必ずしも十分な情報があるとはいえない現況ですが、国の機関である妊娠と薬情報センターの情報を活用し、科学的に検証された情報を提供できるようになりました。

是非ご活用いただければと思います。

マンモグラフィ認定技師の紹介

認定技師　仮屋　愛紀

まず、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会（以後、精中委）について、説明したいと思います。精中委は、厚労省が乳がん検診の制度維持、向上のために認めた委員会で、平成 16 年には特定非営利活動（NPO）法人となりました。マンモグラフィの精度管理について検討し、その管理運営を行うことを目的として設置された委員会です。検診関連の 6 学会（日本乳癌検診学会・日本乳癌学会・日本医学放射線学会・日本産科婦人科学会・日本放射線技術学会・日本医学物理学会）によって構成されています。

この精中委主催または共催の講習会を受け、マンモグラフィ認定試験を受けて合格すると、マンモグラフィ認定技師と認定されます。

試験は、筆記試験（撮影技術：200 点）と読影試験（40 症例 80 枚：100 点）からなり、試験結果によって A・B・C・D にランク分けされ A・B のランクがマンモグラフィ認定技師と認定されます。どちらかの試験が 60%以下で、総得点が 70%以上でも不合格となります。

A　：　総得点が 80%以上（240 点以上）

B　：　B1：総得点が 75%以上 80%未満

　　B2：総得点が 70%以上 75%未満

厚労省の通達によると、「マンモグラフィ認定技師がいる施設で撮影を行うことが望ましい」とされておりそのため精中委の HP（http://mammagraphy.jp/）上にも、認定技師の名前と施設名が公表されています。

地方自治体によっては、検診を委託する必須条件としているところもあります。

また、5 年ごとの更新制度があり、それには筆記試験・読影試験のほかに施設の画像も必要となり普段撮影している画像が採点され、点数に加えられますのでより、精度の向上が求められます。

当院には、現在マンモグラフィ認定技師が 4 人おり、必ず認定を持っている技師が撮影を担当します。ですから、装置の管理はもちろんのこと、撮影技術に長けており、質の高い画像を提供しています。今でこそ、鹿児島県のマンモグラフィ認定技師は増えましたが、最初に私が認定を取得した時は鹿児島県の認定技師は 4 人しかおらず、そのうち２人が当院の技師でした。最近では、認定を持っていないと就職試験さえ受けられない病院が増えています。それだけ、必要不可欠な認定試験になってきているようです。

近々、施設画像認定試験を受けます。これは、当院のマンモグラフィ撮影装置が日本放射線学会の定める使用基準を満たしており、精中委が作成した基準をもとに検診にふさわしい画質や線量で撮影されているかどうか評価されるものです。以前、取得しておりましたが、マンモグラフィ撮影装置の更新により新たに取得する予定です。

これも同様に、A・B・C・D でランク分けされ、A・B が認定施設となります。

皆様も精中委の HP を見て施設を選んで、マンモグラフィ検診に行かれてみてはいかがでしょうか？

ピンクリボンとは！？

ピンクリボンは、乳がんの早期発見・早期治療への思いを込めた世界共通の乳がん撲滅のシンボルマークです。
８人に１人が乳がんにかかるというアメリカで、乳がんで家族を亡くした遺族がこの悲劇を繰り返さないようにと願いを込めて作ったピンクのリボンが始まりです。

日本では女性の１８人に１人が乳がんにかかると言われています（国立がんセンターがん対策情報センター調べ）が、その割合は年々高まっており、将来的にはアメリカと同じような割合になるだろうと言われています。

より多くの方々に、乳がんに対する正しい知識を持っていただき、健康に対する意識を高めていただくために・・・また乳がんになって悲しむ人が少しでも減るようにピンクリボン活動が行われています。
鹿児島県でのマンモグラフィ検診の受診率は18%もなく、全国的にも低いといわれています。なぜ、こんなに低いのか？自分はがんにかからないと思っているのか、忙しくて検診を受ける暇がないのか・・・理由はいろいろあると思いますが、日本人の２人に１人はがんにかかると言われている時代です。
乳がんは早期発見、治療されれば、9割以上はその後問題なく生活できると言われています。
若くして乳がんにかかる方も増えています。私の友人も若くして乳がんにかかり、なぜ検診を勧めなかったのかと後悔したことがありました。是非、年に一度自分のために、大切な人のために、検診を受けてみてはいかがでしょうか。

● ピンクリボンかごしまについて

NPO 法人ピンクリボンかごしまは、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えていくことを目的に、鹿児島県内を中心に活動する市民団体です。
今年も「２０１０ピンクリボン in かごしま」が１０月２４日（日）鹿児島中央公園テンパークにて開催されます。今年で７回目となり、年々参加者も増加し、ピンクリボンへの関心が高まってきています。
当日はピンクリボンウォークやピンクリボンフェスタ（乳がん検診、健康チェックコーナー）等、実施予定です。参加されたことがある方も、ない方も今年参加されてみてはいかがでしょうか？また、ピンクリボンを応援したいという方！「２０１０ピンクリボン in かごしま」のボランティアも随時募集中です。詳しくは、「ピンクリボン in かごしま」の HP をご覧ください。

～子宮頸がん予防接種を行っています。～

宮頸がん予防のワクチン接種を始めました。子宮頸がんは、子宮頚部にできるがんです。
子宮頸がんは、発がん性 HPV（ヒトパピロウイルス）の感染が原因となり、20~30 代の若い世代に多いのが特徴です。初期の段階では、自覚症状が無いため、発見が遅れる場合もあります。予防接種対象は、10~14 歳までの少女が第一推奨で、第二は 15~26 歳とされています。前がん状態となった方でも、中等度異型上皮までが接種対象の範囲と考えられていますが、それ以上の病変の方は対象となりません。前がん病変では、type16,18 の high risk HPV の同時感染が 20%に起こっていると考えられています。残りの 80%のうち約半数の症例では、一方の HPV しか感染が起こっていないと考えられています。従ってワクチンの効果は、50%程度しか期待できないと想定されています。なお、学術的には男子へのワクチン接種で、効果が期待できる疾患群が存在しますが、現在は、対象とされていません。接種は、半年間に三回必要で、費用は三回で、４万６千円かかります。
ご希望の方は、婦人科外来にご相談ください。

1 → 2 → 3

一ヶ月後　　六ヵ月後

当院では、職員全体研修を実施しています。

実施日	テーマ	講　師
平成 22 年6月 2 日	医療安全研修 「訴訟事例を通して、医療安全対策を考える」	損保ジャパン 医療賠償サービスセンター課 矢島智子
平成 22 年 8 月 24 日	「接遇研修」	フューチャーコミュニケーション 代表　松本一絵
平成 22 年 9 月 7 日	「当院の感染事例報告」 「疥癬などの感染症」	感染認定看護師　土屋香代子 皮膚科医師　久留光博
平成 22 年 9 月 16 日	「臨床における倫理的問題の対処法」	熊本大学大学院生命科学研究部 生命倫理学分野　教授 浅井　篤

優良自治体病院として総務大臣表彰を授与されました。

表彰を受ける上津原病院長

平成 22 年度の自治体立優良病院の総務大臣表彰を受賞しました。去る 5 月 27 日、東京の都市センターホテルで開催された授賞式には、上津原病院長と田中事務局長が出席し、表彰状と盾および置時計を受領しました。この表彰は、これまでの地域医療に対する貢献や経営の健全性などが評価され、全国 1000 を超える自治体立病院の中から 4 つの病院が表彰されました。今回は、平成 10 年についで 2 度目の受賞で、岐阜県の大垣市民病院と並んで全国でも初めてとなります。

高い外部評価を受けたことは、非常に光栄です。

これは、「安心安全な質の高い医療」を理念に掲げ、地道に努力してきた結果と考えています。今後も、院内各部門が連携し、慢心することなく向上してゆきたいと思っています。

（病院長）

絵 の 寄 贈

陽光に輝く南岳　　150号（220×165cm）　　納　光弘

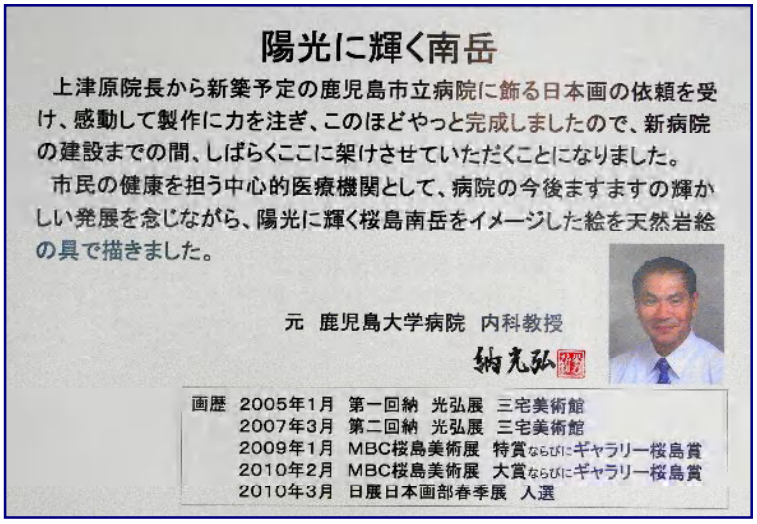
平成 22 年 8 月 11 日　上津原病院長から「新病院に飾る」日本画の依頼を受け、元　鹿児島大学病院教授　納　光弘先生より絵を寄贈して頂きました。

「陽光に輝く南岳」は、「来院患者さんが、明るい気持ちになること。新病院が、市民から愛され、ますます発展するように」ということから金色が多く使用され、荘厳で力強さに満ち溢れています。

現在、病院玄関に飾られています。

先生は、退官後本格的に絵を始められたそうですが、桜島を題材にした絵が多くあります。
桜島に拘っているのは、「桜島は、鹿児島のシンボル、心の原点」という理由からだそうです。

本当にすばらしい絵を寄贈していただき、有難うございました。



陽光に輝く南岳

上津原院長から新築予定の鹿児島市立病院に飾る日本画の依頼を受け、感動して製作に力を注ぎ、このほどやっと完成しましたので、新病院の建設までの間、しばらくここに架けさせていただくことになりました。

市民の健康を担う中心的医療機関として、病院の今後ますますの輝かしい発展を念じながら、陽光に輝く桜島南岳をイメージした絵を天然岩絵の具で描きました。

元　鹿児島大学病院　内科教授

納光弘

画歴　2005年1月　第一回納　光弘展　三宅美術館
2007年3月　第二回納　光弘展　三宅美術館
2009年1月　MBC桜島美術展　特賞ならびにギャラリー桜島賞
2010年2月　MBC桜島美術展　大賞ならびにギャラリー桜島賞
2010年3月　日展日本画部春季展　入選

納先生から絵と一緒に送られたパネル

感謝状の贈呈

ペ・ヨンジュンさんからの贈り物

当新生児センターは、８月に韓流スターペ・ヨンジュンさんから新生児用保育器１台の寄贈を受けました。チャリティー活動の一環として「子どもたちの明るい未来を守る手助けをしたい」と、

「子どもたちの未来守りたい」

ヨン様 保育器寄贈

鹿児島市立病院

生児医療に熱心な全国8病院への保育器寄贈を決めた。九州では市立病院が唯一選ばれた。

保育器は幅68センチ、奥行き119センチ、高さ138センチで自動開閉する。現在使用しているものと比べ軽量で移動しやすく、赤ちゃんに又トレスをかけずに処置が可能という。定価は約300万円という。

新生児センター（NICU）内の移動などに使われる。

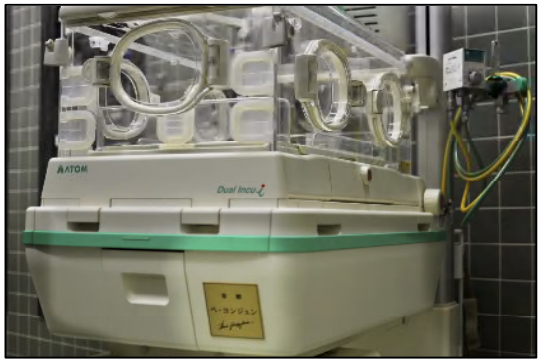
国内のマネジメント事務所にもなり、ペさんは「子どもたちの明るい未来を守る手助けをしたい」と、新

鹿児島市加治屋町の市立病院（上津原甲一院長）に、韓国人気俳優ペ・ヨンジュンさん（32）＝写真＝が、最新型の保育器1台をプレゼントした。ペさんのサインが入りプレート付きで、新生児センター（NICU）内の新生児集中治療室（NICU）は約50台あるが、型が古いものもある。新生児科の末廣茂主任部長（53）は「最新の保育器で赤ちゃんを安全に守れる。ありがたい」と話した。

・ヨンジュンさんから贈られた保育器＝3日、鹿児島市立病院

8月4 日南日本新聞

全国で８医療施設に１台ずつ贈られたということです。この保育器には、ぺさんのサイン入りプレートが付いています。



幅６８センチ・奥行き１１９センチ・高さ１３８センチの大きさで、現在使用のものより軽量で、移動が容易です。

フードが自動開閉でき、保育器内での処置がスムーズに行えます。また、高加湿状態で搬送できるため、新生児のストレス軽減に大変優れています。現在、出生直後の低出生体重児の搬送に活躍しており、「この最新保育器でより安心・安全な治療と看護ができる。ありがたいプレゼントを頂いた。」とスタッフ一同喜んでいます。

鹿児島市立病院だより　　第６版
発刊日：　平成 22 年９月
発行者：　〒892-8580　鹿児島市加治屋町 20-17
　　上津原甲一　鹿児島市立病院長(事業管理者)
担　当：　医療連携室・広報委員会
TEL　：　099-216-3631　　ＦＡＸ　：　099-216-3632
URL　：　http://www.kch.kagoshima.kagoshima.jp

****

この広報誌は、紙へのリサイクルに適した材料を用いて作成しています。

****